

「府内城三之丸 武家屋敷跡の発掘調査速報」



調査の概要

大分市教育委員会文化財課では、荷揚町小学校跡地の発掘調査を行なっています。発掘調査は、おおよそ2年間にわたり、約5500㎡の調査を行います。

荷揚町小学校の跡地は、江戸時代には、府内城三之丸の武家屋敷地として、家老や奉行クラスの上級武士が居住するエリアでした。そのため、調査では江戸時代の武家屋敷における武士の暮らしの様子が解明されることが期待されます。

DATA	
名称:	府内城三之丸
所在地:	大分市荷揚町(荷揚町小学校跡地)
調査面積:	約5500㎡ 内1・2区 約1000㎡
	3区 約2500㎡
	4区 約2000㎡
調査期間:	平成29年8月末～平成31年8月頃
	平成30年1月時点で1・2区終了し、平成30年2月～平成30年12月に3区、平成31年1月～同8月4区調査予定





武家屋敷からの出土品

府内城三之丸の武家屋敷からは、たくさんの茶碗や皿、徳利などの生活用品が出土しました。その多くは、いわゆる伊万里焼と呼ばれる磁器の焼き物で、佐賀県有田地域で作られたものです。当時は、磁器の茶碗や皿が出回り始めた頃で、現在ほど安価ではなく、一般庶民などの多くは、主に木製の椀を使っていました。そのほか、大分市の細地域で作られた瓦も多く出土しており、その中には、製作者の名前が刻まれた鬼瓦も見つかっています。このように、これほど多くの磁器の茶碗や皿、瓦などが出土することは、上級武士としての暮らしぶりを示すものと考えられます。

また、出土品の中には、焼継文字や線刻によって人物名が書かれた品物があります。こういった名前のわかる出土品はその屋敷地の居住者を示すもので、絵図との比較によって居住者を特定する上で、大変貴重な発見となりました。



焼継文字とは

焼継は、割れた器の破片を着けるために、溶かした鉛ガラスなどを使って修理することで、焼継文字は、その修理の際に、器の所有者がわかるように焼継屋（修理職人）が赤字で書いた所有者の名前です。

調査で、この焼継文字が出土することによって、屋敷の所有者の名前が判明しました。



▲焼継文字の書かれた伊万里焼



▲「太田氏」の名前が書かれた硯



名前が書かれた硯

絵図にある「太田氏」の屋敷の範囲から出土した「太田氏」の名前が書かれた硯です。

1810年頃の火災の後に、片付けを行なった際に掘った穴（火災処理土坑）から出土しており、「太田氏」の屋敷地であったことが証明されました。



▲数多く出土した伊万里焼や陶器の器



▲製作者（高島助ノ丞）の名前が書かれた鬼瓦